

東部日本語ボランティアネットワーク 第16回定例会議事録

【日時】平成26年7月19日（土）（雷雨）14:00～16:00【場所】三島本町タワー4F
【参加者】14名（三島）佐藤、（のびっこ）石井、渡辺、（裾野）佐野、（清水町）杉崎、（伊豆の国市）久木野、（FILS）小川、（たぶんかどんぐり）山田、（富士宮）吉野、（沼津）斉藤、高澤、芦川、相田、虎谷（以上敬称略）

◎SIR主催研修会「これからの日本語支援活動について考える」の紹介
2014年9～12月に全5回開催。

◎文化庁委託「ふじのくに多文化共生サポーター育成講座」の紹介
2014年8～12月に開催。

◎相田の小話

移民について、同化型と寛容型の話。書籍紹介「移民の運命」（エマニュエル・トッド）

◎各教室の開催状況（各国語版）更新
ご協力くださった方ありがとうございました。

◎各教室の活動報告

○ 沼津「沼津にほんご教室」

- ・ 学習者数は毎回30名前後。新規入会者（学習者）に継続してもらうための対話活動を継続して行っているが、目に見えた効果は出ていない。内容の見直しを行っている。
- ・ 2年ごとの役員交代があった。役員の負担の大きさのため、毎度決定に苦労していたため、役割分担の平坦化を図った。まだ始めたばかりで様子見の段階だが、今後2年間は現行の体制を継続していく予定。

○ 沼津「親子にほんごひろば」

- ・ 第5地区センターは相変わらず生徒が少なく悩みが深い。今沢会場の生徒が一部来るだけで、近隣の人が来ない。
- ・ 今沢会場は7,8人コンスタントに来ている。
- ・ 両会場とも教える内容は、親は会話、漢字、子供は宿題、勉強が中心である。

○ のびっこクラブみしま

- ・ 日大生が多く入った。学生対子供が3対1になるような時もあり、圧迫感があるかもしれないが、和気藹々とやっている。
- ・ 教える内容は主に学校の勉強。中高生もいる。
- ・ のびっこは「居場所」の役割を果たせばそれでよいが、やはりしっかりした指導をしたいと思っており、アプリの活用など工夫をしている。
- ・ コンスタントに6～8人ほど来ている。人数が集まっている理由は、学校に入り込んで声をかけたり、市民相談からのつながりなどを大事にしたため。HP、新聞も活用した。これからはfacebookをもつ

と活用したい。ラインなどで直接連絡することも大事。(他の団体でも結局は先生と生徒の直接のつながりがないと、なかなか来ないとのこと)

- ・ 場所の確保に困難な点があったが、他団体と協力して使用ルールを決めて楽になった。
- ・ キリン福祉財団の助成金の支給を受けた。良かったと思う点は、イベント実施前に支給されたことと、文化庁などほど報告書類の作成が厳しくなかったこと。
- ・ スペイン語圏の子供のための母語支援として、要望にも応えて、スペイン語講座を行ったが、受講者はだんだん母語支援の対象となる人が来なくなり、日本人だけが残ってしまった。
- ・ 生徒二人が高校を卒業したので 3/25 にお祝いをした。高校卒業は大変なことで、新聞にも載った。日大生にも良い刺激になったと思う。小中学校生にも良い希望になった。
- ・ 小学校から中学校に上がった子がおり、部活が忙しいためのびっこに出席しづらくなったので、のびっこ以外の支援の場所を提供しようと考えた。少し始めたところ。
- ・ イオンの「黄色いレシート」を使って活動費の足しにした。
- ・ 6 月に勉強の後遊びの時間を持った。日大生がたくさん遊んでくれて、普段声の小さい子供も元気に遊んだ。親も一緒に遊んでよい交流になったので、今後も継続したい。
- ・ 「三島市子育て支援団体等活動費補助事業」が企画・報告とも比較的容易そうだったので応募したところ、採択された。二回の活動のうち一回目で、交流をしてから二回目の活動内容を考える。デイキャンプをすることにした。

○ 清水町

- ・ 参加者は先生 4 人、子供 3~10 人。
- ・ 子供の宿題をメインに教えている。
- ・ 子供が日本人の友達を連れてきて、一緒に勉強を習っていくことがある。寺子屋化している。
- ・ 教室に来ている子は学校の勉強にもついていけている様子である。
- ・ 2 時間の教室が終わった後に中学生が来て、さらに 2 時間教えることがある。大変だが本人ががんばっているのが力になりたいと思っている。
- ・ 東部パレットの方の尽力で期間限定で支援金をもらった。キーマンがいて報告書などの資料作成もしてくださった。
- ・ 子供が感謝のメッセージをくれて嬉しかった。

○ 裾野

- ・ 生徒がガツンと減り、2,3 人になった。15,6 年やっているがこの半年は特に少ない。300 円の受講料も来づらい理由になっているか？(生徒のためのイベントなどに使っている)
- ・ 外国人自体が少ない。茶畑に集住しているが、子供は少ない。先生のモチベーションが低下しないか心配である。なおほぼマンツーマンで教えている。
- ・ 生徒を増やす方法が何かないか意見をいただきたい。(皆さんから、個人的な声かけをしないとどこの教室もなかなか集まらないとのこと)

○ 富士宮

- ・ ボランティアが週一で学校への入り込みをしていたが、教材選びなどもボランティアがしなくてはならないなど、負担が大きすぎた。学校側は深刻さに対する認識が無く、支援が必要な旨を報告し

ていなかったことがわかり、教育委員会にあげてもらおうことにした。(事務局が対応した?)

- ・ ボランティアの活動については、その後、生徒に何を出来るようにさせたいかなどの目的を、学校側に設定してもらうようにした。
- ・ 一部の人に負担が集中しないように情報共有を始めた。
- ・ 「おしゃべりラウンジ」で日本語で外国人と交流している。ママ友が子供も連れてくるので良い交流が来ている(おにぎりを作ったり、勉強を教えるなど)

○ 三島「三島日本語サークル」

- ・ 会員は少し減少傾向だが入会もあり、現在 50 名ほど。
- ・ 生徒が増えない(現在 24 名)。会費が高すぎるか?
- ・ 児童支援で中学生を 3 名教えている。二人は 60 時間消化したが、学校からは継続して欲しいと要請があった。一人はまだほとんど話すことが出来ず、重点的な指導が必要な状態である。本人は勉強も教えて欲しいようだが(対応できるか検討中。)
「のびっこ」に(来る)行くよう伝えた。(なお学校側はノータッチ。)
- ・ (明日 7/20) 恒例のおしゃべり会の代わりに、昨年の SIR 研修会の内容を生かすためのプレゼンを行う。

○ FILS

- ・ ボラと生徒の組み合わせは、マンツーマンのマッチング方式。内容も個別対応で決めている。
- ・ 日本語検定のための勉強をしたい生徒が多い(N4 に受かって N3 勉強中。帰国までに N2 に受かりたいなど。)。生活支援を教えている人もいると思う。費用は 10 回 2000 円。
- ・ 子供もいるが大人が多い。生徒が余っているので先生を増やしたい。

○ どんぐり(浜松)

- ・ どんぐりは佐鳴台で教えている。生徒は外国人集住地域におり、困ることも少ないので教室に来ない。ペルー人が多く、スペイン語を出来る方がサポートしている。他の団体は大人か子供の片方のみを対象としているところが多いので、両方を対象とする事で特色を出したい。
- ・ 日本語教室の最後の 15 分ぐらいを使い、子どもの絵本を読み聞かせを始めた。学習者の母語の絵本なので、大人の学習者にも協力してもらい、子どもたちに母語で読んで日本語にも訳し、本の内容について質問を日本語でして、大人・子どもも勉強になるように工夫している。

○ 伊豆の国市

- ・ 生徒は実習生、ALT などで、ベトナム、中国、インドネシアの人が多く。函南、沼津の方も参加している。人数にはばらつきがあるが、仕方が無い。以前からそうなので慣れており、対応できている。ボランティアは元先生などが多く。
- ・ 教える内容は、ひらがなレベルから新聞の切抜きを読むなど高度なレベルまでまちまち。学習内容はカードに記録して、次に教えるボランティアに引きついでいる。
- ・ 会場費が免除になっており、運営環境は恵まれている。活動の周知は、全市にも回覧される機関紙などで行っている。